

大基本目標	小基本目標	数値目標	重要業績評価指標 (KPI)名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課
		具体的な施策										
1 しごとの創生	1-1 安定した雇用の創出	新規求人数	-	①雇用を促進するため、セミナー等を開催し支援に努めた。 ②雇用を促進するため、ニーズに沿った支援を検討。 ③引き続き雇用促進の支援を図る。	1,563件	1,486件	1,472件	1,594件	1,630件	概ね順調に進捗	-	商工労働課
		①地域産業の活性化、付加価値の向上	製造品出荷額等	①企業取引を増やすため、展示会出展に関する支援を行った。 ②原材料費やエネルギーコストの高騰による影響がある。 ③ビジネスマッチングイベントの開催や展示会への出展や開催に対する補助を行い、企業の販路拡大や協業先獲得に繋げる取り組みを実施する。	11,942億円 (平成30年)	10,060億円 (令和2年)	11,017億円 (令和3年)	12,262億円 (令和3年)	13,500億円 (令和8年)	概ね順調に進捗	-	企業誘致課
			新技術・新製品等の開発数	①新技術・新製品等の開発に意欲的な企業を支援した。 ②企業への周知と併せ、事業予算の確保が必要となる。 ③商工団体と連携し、事業周知等を務めていく。	4件	4件	5件	10件	8件	進捗の遅れ	コロナ禍の影響による事業者の開発意欲の低下のため、目標値の10件に到達していないが、新技術・新製品等の開発に関する補助金の申請件数は回復基調にある。	商工労働課
			創業相談件数	①市内で新たに創業する事業者に対し、支援を行った。 ②ニーズが高く、今後も支援を継続するため、事業予算の確保が必要。 ③商工団体と連携し、創業者の支援を継続して実施する。また、まちなかでの創業促進に取り組む。	10件	28件	28件	13件	28件	順調に進捗	-	商工労働課
		②就労への総合的支援	いせさき合同会社説明会の参加者数	①学生や既卒者を対象とした企業説明会。 ②参加者で会場があふれるほど好評だったため、会場の規模拡大を検討する。 ③引き続き、商工団体等と連携し、事業を推進していく。	144人 (平成30年度)	80人	161人	184人	200人	概ね順調に進捗	-	商工労働課
			女性のためのおしごとフェアの参加者数	①スマーク伊勢崎で面接会・職場見学会等を行った。 ②参加者ニーズに沿った事業を推進していく。 ③引き続き、関係機関と連携し、事業を推進していく。	41人	40人	46人	50人	58人	概ね順調に進捗	-	商工労働課
			障害者の一般企業への新規就労者数	①障害者就労支援協議会において企業見学、障害者就職面接会等を開催したほか、障害者ワークフェスタを開催し、障害者雇用の促進に努めた。 ②障害者の一般就労に対する企業の理解促進など、障害者の雇用・一般就労に向けた支援の拡充に取り組む必要がある。 ③障害者就業支援協議会と連携して、障害者の一般就労を促進していく。また、障害者の自立と一般就労の促進のため、障害者優先調達推進法を積極的に活用していく。	19人	18人	23人	24人	22人	概ね順調に進捗	-	障害福祉課
		③企業誘致の推進	製造業の事業所数	①首都圏で開催される展示会において、産業団地予定地のPRを行った。 ②早急に産業団地となる用地を整備を進めていく必要がある。 ③関係機関と協力し新たな産業団地の整備を進めていく。	187事業所 (平成29年)	187事業所 (令和3年)	187事業所 (令和3年)	189事業所 (令和4年)	195事業所 (令和8年)	概ね順調に進捗	-	企業誘致課
			製造業の従業者数	①企業の知名度を向上を図るため、展示会共同出展などにより企業PRの活動を支援した。 ②企業名や製品の知名度が低いこと。 ③ビジネスマッチングイベントの開催や展示会への共同出展などによる補助事業を行い、従業員の雇用拡大に繋げていく。	27,517人 (平成29年)	28,002人 (令和3年)	28,002人 (令和3年)	28,000人 (令和4年)	28,560人 (令和8年)	順調に進捗	-	企業誘致課
		④農業の成長産業化	新規就農者数	①就農相談会の実施。 ②農地の確保が困難。 ③関係機関と連携しながら新規就農者の支援。	21人	127人	144人	61人	157人	順調に進捗	-	農政課
			ほ場整備面積	①群馬県を事業主体とした境小此木東部土地改良事業を、令和2年度から令和7年度までの事業期間として実施していたが、予算の割り当ての関係で、完了年度が1年延期となった。整備の済んだ農地から一時利用地指定を実施している。 ②ほ場を整備するにあたり、計画高に合わせるため、土砂の搬入を必要としているが、整備後の利用をほ場としているため、30cm以上の転石が混じらないことを条件としている。整備工事を効率的に施工するため、計画的な土砂搬入が課題となっている。 ③事業主体が群馬県であるため、土地改良区や地元の意見がきちんと反映される様、各委員会等に出席し連携を密にしていく。	3,923ha	3,933ha	3,942ha	3,940ha	3,949ha	順調に進捗	-	農村整備課

大基本目標	小基本目標	数値目標	重要業績評価指標 (KPI)名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課
		具体的な施策										
1 しごとの創生	1-2 ひとの流れの 創出	年間観光入込客数	-	①コロナ禍で中止となっていた事業がほぼすべて再開した。 ②コロナ禍で激減した入込客数を取り戻すため、新たな工夫や取組が必要である。 ③時代にあったイベントの開催方法を検討するとともに、積極的な情報発信に努める。	331万人	258万人	258万人	378万人	365万人	進捗の遅れ	コロナ禍以降、回復傾向にあるものの集客が伸びておらず、また七夕まつりの休止やイベントの統合が主な原因としてあげられる。	文化観光課
		①地域資源、観光資源を生かした誘客	境地区の年間観光入込客数	①田島弥平旧宅などの境地区の観光名所やイベントはほぼすべてを再開した。 ②コロナ禍で激減した入込客数を取り戻すため、新たな工夫や取組が必要である。 ③SNS等を活用した情報発信を効果的に行い、集客に努めている。	88,271人	29,719人	42,867人	88,400人	94,000人	進捗の遅れ	コロナ禍以降、回復傾向にあるもののイベント等の集客が伸びておらず、生活様式の変化も考えられる。	文化観光課
			華蔵寺公園遊園地年間利用者数	①季節に合わせたイベント開催や遊器具の一部無料開放を実施した。 ②コロナ禍で激減した利用者を取り戻すため、新たな工夫や取組が必要である。 ③利用促進に向けた様々なイベントを実施するとともに、計画的に遊器具の修繕等を行い安心して楽しめる施設運営に努める。	169万人	160万人	156万人	195万人	196万人	進捗の遅れ	コロナ禍以降、回復傾向にあるものの集客が伸びておらず、また休止した遊具の再開に時間を要していたため。	文化観光課
		②関係人口の創出・拡大	伊勢崎シティマラソンの市外参加者数	①募集定員を2,000人、小学生が参加できる1.5kmの種目を実施と新型コロナウイルス感染拡大前の規模で通常開催した。 ②目標値の人数で開催できるために、市外在住者への効率の良い周知方法を検討する事が必要となる。 ③市外でのポスター、要項等の配布先や掲載場所を増やすほかランニングポータルサイトや市HP等での周知の強化を図る。	1,059人	596人	1,089人	1,140人	1,210人	順調に進捗	-	スポーツ振興課
			ふるさと納税寄付件数	①オリジナルお礼状を作成や、大手化粧品メーカーによる謝礼品提供の開始等などにより、寄附の促進を図った。 ②国の制度改正への対応の必要から、寄附額設定を変更したことにより、前年度と比較して寄附が減少した。 ③国の制度に準拠しつつ、寄附の促進が図れるよう運用方法の確立を目指す。	448件	30,915件	17,342件	1,000件	46,000件	概ね順調に進捗	-	企画調整課
		③地方居住の推進	移住相談会等の参加者数	①東京都内で開催される移住相談会に出展した。 ②R4年度から対面形式の相談会に出展可能となったため、移住希望者への的確な情報提供を行う。 ③HP等利用により本市の魅力を発信しつつ、相談会において移住希望者が相談しやすい環境を整える。	223人	253人	277人	221人	318人	順調に進捗	-	企画調整課

大基本目標	小基本目標	数値目標		重要業績評価指標 (KPI) 名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課	
		具体的な施策												
2 ひとの創生	2-1 結婚・出産・ 子育ての 希望の実現	合計特殊出生率	-	①総合戦略に基づく結婚・出産・子育ての希望の実現に係る各事業の実施。 ②総合戦略に基づき、結婚・出産・子育ての希望の実現に係る各事業を担当課により実施した。合計特殊出生率は平成18年ごろから増加傾向であったが、減少傾向に転じてしまっている。 ③結婚・出産・子育ての希望の実現に係る各事業について、創生会議を通して適切に進行管理・評価を行い、各事業の総合的な基本目標である合計特殊出生率の増加を図る。	1.41 (平成30年)	1.35 (令和3年)	1.22 (令和4年)	1.64 (令和4年)	令和6年3月の改訂に伴い、令和6年度以降は「年少人口」へ変更	進捗の遅れ	仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや、結婚・出産に対する価値観の変化を背景として、未婚化・晩婚化が進行したため。	企画調整課		
				①母子保健サービスの充実	出生数	①乳幼児健診の充実・強化など。 ②出生数はしばらく横ばいであったが、平成20年ごろから減少傾向が続いている。 ③総合戦略に基づく母子保健サービスの充実に係る各事業について、創生会議を通して適切に進行管理・評価を行うことで、出産や子育てのしやすい環境整備を促進し、出生数の増加を図る。	1,702人 (令和元年)	1,468人 (令和4年)	1,426人 (令和5年)	1,778人 (令和5年)	令和6年3月の改訂に伴い、令和6年度以降は「3歳児健康診査受診率」へ変更	進捗の遅れ	仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや、結婚・出産に対する価値観の変化を背景として、未婚化・晩婚化が進行したため。	企画調整課
					妊婦健康診査受診率	①妊娠届出時の保健指導で受診を勧め丁寧な説明を行った。 ②健診未受診妊婦0人とならない状況である。関係機関との連携が必要。 ③妊婦への丁寧な説明、保健指導。関係機関との十分な連携。	80.5%	82.1%	78.1%	82.0%	82.0%	進捗の遅れ	妊婦健康診査未受診の理由として、多忙、経済的理由、妊娠届出の遅れ、流早産、外国人の母国への里帰り出産等が考えられる。	健康づくり課
					子育て世代包括支援センター相談件数	①妊娠届出時・出生後の伴走型相談支援、子育て相談、妊産婦相談を実施した。 ②妊産婦相談の利用者がほぼ産婦であり、妊婦にも利用してもらえるよう周知方法を考える必要がある。 ③出産・育児に対する不安を軽減できるよう個々の実情に沿った支援を行う。	—	1,946件	2,627件	2,865件	2,865件	概ね順調に進捗	—	健康づくり課
					伊勢崎市で今後も子育てしたいと思う割合	①4か月児健康診査での保護者への質問票により調査を実施した。 ②子育て支援の推進のため関係機関との連携の強化が必要である。 ③様々な保健事業を通じて子育てを支援していく。	72.5%	62.2%	63.5%	80.1%	77.3%	進捗の遅れ	子育てを取り巻く環境において、保護者のニーズが多様化していると考えられる。	健康づくり課
				②子育て支援の充実	保育施設待機児童数	①多様化する保育ニーズに応じるため、民間教育・保育施設への施設整備等に対する補助を行った。 ②保育ニーズの低年齢化に対応するための児童受け入れ枠の拡大や調整を図る必要がある。 ③引き続き待機児童なしを継続できるよう施設整備等を実施する。	待機児童なし	待機児童なし	待機児童なし	待機児童なし	待機児童なし	順調に進捗	—	こども保育課
		放課後児童クラブ数	①利用ニーズに応じてクラブ数・単位数の調整を図った。 ②特になし。 ③待機児童が発生することのないよう受け皿の調整を図る。		78力所	95力所	96力所	91力所	97力所	順調に進捗	—	子育て支援課		
		放課後子供教室数	①地域社会の中で、子供たちが安全で安心して健やかに育まれるよう、児童が多様な体験・活動を行うことを目的として、地域の方々の参画を得て学習や工作などを行っている。市内11教室で実施をしている。 ②各小学校、地域の実態に応じ、十分検討しながら計画的に整備を進める必要がある。補助金を活用しているが、今後補助金が打ち切られた時の実施方法について検討し、継続して事業を行う。 ③令和6年度までに12教室に拡充し、継続して事業を実施していく。		7教室	10教室	11教室	11教室	12教室	順調に進捗	—	生涯学習課		
		ファミリーサポートセンター会員登録数	①事業周知に広報誌掲載や各種団体へ会員登録依頼を実施。活動総時間は年々増加している。 ②国の指示で、令和3年度から会員整理事務を実施すると退会者が発生、登録者が減少した。 ③広報誌や周知イベントのみでなく、インターネットなどを使い、広報活動を強化する。		828人	655人	623人	880人	700人	進捗の遅れ	ファミリー・サポート・センターの利用は、一時的な預りや送迎の場合もあり、それぞれが必要な期間を終えると、会員整理通知により、継続意向の無い会員は退会するため。	こども保育課		

大基本目標	小基本目標	数値目標		重要業績評価指標 (KPI)名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課
		具体的な施策											
2 ひとの創生	2-2 地域を担う 人材の育成	将来の夢や希望の実 現に向け努力している 児童・生徒の割合		-	①生活学習状況調査における調査項目を参考に実施状況を把握している。 ②児童生徒が将来の夢や希望に関わる事柄について具体的に調べたり体験したりできる場面の充実を図ること。 ③「未来力」学習講座の意図的・計画的実施やキャリアパスポートの活用など、児童生徒が、将来の夢や希望を具体的な目標や目的に変え、自己の生き方について考える機会の充実を図るとともに、自己有用感や自己肯定感を高める取組を継続して行う。	75.3%	76.4%	78.1%	83.0%	85.0%	概ね順調に進捗	-	学校教育課
		①地域に根ざした特 色ある教育の推進	自分の住んでいる地域を誇りに思っ ている児童・生徒の割合	①「ふるさと伊勢崎の伝統・文化・歴史に立脚したグローバルな広い視野と高い志を持ち、よりよい未来を創り出す子供」を本市の学校教育において育成すべき子供像として掲げ、共通の方向性や施策を伊勢崎市教育構想に示した。本構想の柱を豊かな心育成プラン、確かな学力向上プラン、みんなの未来創造プランの3つとし、すべての公立幼稚園、小学校、中学校において各学校園が、本構想に基づいて教育活動の充実を図った。 ②ふるさと伊勢崎の伝統・文化・歴史に立脚したグローバルな広い視野と高い志をもち、よりよい未来を創り出す子供を地域とともに育てる教育を推進を目指し、継続的な取組や更なる充実を図ること。 ③子供の未来を地域とともに育てる教育を推進し、地域や家庭、関係諸機関の協力を得ながら、各幼稚園・学校におけるカリキュラム・マネジメントを実現することにより、更なる充実を目指す。	85.2%	90.5%	90.4%	88.0%	90.0%	順調に進捗	-	学校教育課	
			高等教育機関との連携による公開講座 参加者数	①健康関連や生物関連、また運動を取り入れるなど多様な講座を実施し、学習機会の提供を行った。コロナが明けたが、参加者は完全に戻っていない。 ②離れてしまった方々を戻すため、魅力ある講座の実施が必要となる。 ③アンケートなどの意見を参考に、市民が求める魅力ある講座を実施するとともに、新規の参加者も取り入れるため周知にも力を入れていく。	248人	129人	93人	380人	475人	進捗の遅れ	コロナ禍で減少した参加者数が、それ以前の水準まで戻っていないため。	生涯学習課	
		②グローバル教育の 推進	英語の学習が楽しいと感じている児童・ 生徒の割合	①生活学習状況調査における調査項目を参考に実施状況を把握している。 ②英語の学習を通して、自分の取組のよさや成長を実感できるようにし、進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする児童生徒を育成すること。 ③自分の思いや考えを積極的に伝え合う子供を育成していくために、小中9年の一貫性を意識した言語活動を充実させていく。	小学校88.7% 中学校82.8%	小学校86.1% 中学校76.6%	小学校87.1% 中学校72.2%	小学校94.5% 中学校85.0%	小学校90.0% 中学校85.0%	進捗の遅れ	学習の楽しさに繋がる、自らの知識や技能の伸びについて、気付いたり実感したりする機会が十分ではないことが原因であると捉えている。	学校教育課	

大基本目標	小基本目標	数値目標	重要業績評価指標 (KPI) 名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課
		具体的な施策										
3 まちの創生	3-1 時代に合った 地域づくり	伊勢崎市が住みよいと 感じている市民の割合	-	①市民アンケート調査において、市の住みよさや、総合計画の各施策の満足度・重要度等について調査を行った。 ②住みよさを高めるため、市民意識調査における重点改善施策(満足度が低く重要度が高い施策)について、早期に改善を図る必要がある。 ③市民意識調査の結果を予算配分や事業計画に反映できる仕組みを検討・実行し、重点改善施策の早期改善を実現する。	73.6%	74.1% (令和3年度)	76.9%	75.5%	77.5%	順調に進捗	-	企画調整課
			健康寿命	①健康寿命(介護を必要としない平均自立期間)の延伸に向かって、はつらつウオーキング教室や食育関連事業をはじめとする健康づくり事業等を推進。 ②個人、地域における健康づくりが格差なくできる環境整備が必要。 ③関係機関と連携し、市民の健康づくりを総合的に推進する。	男性77.41歳 女性79.89歳 (令和元年) ※変更前	男性77.67歳 女性80.22歳 (令和4年) ※変更前	男性79.4歳 女性83.7歳 (令和4年) ※変更後	男性78.72歳 女性80.82歳 (令和5年) ※変更前	男性 79.4歳 女性 84.0歳 (令和8年) ※変更後	概ね順調に進捗		健康づくり課
			①地域医療体制の充実									
			休日夜間急患センターの開設日数	①休日夜間の救急診療体制を維持することで市民の救急医療に対する不安を解消し、安心して生活ができる環境整備を行いました。 ②開業医の高齢化により現体制の維持が困難になる可能性がある。 ③医師会等の医療関係団体と安定した関係性の構築。	366日 (閏年)	365日	366日 (閏年)	366日 (閏年)	366日 (閏年)	順調に進捗	-	健康づくり課
		②住み慣れた地域で 安心して自立した生 活を送ることができる 体制の整備	特定健康診査実施率	①集団健診及び個別健診の実施。 ②前年度比で上昇しているが目標値には届いていない。 ③効果的な受診勧奨や周知に努める。	42.5% (平成30年度)	43.2% (令和3年度)	44.0% (令和4年度)	60.0%	49.0%	進捗の遅れ	目標値が国の基準に準じて非常に高く設定されているため。令和4年度法定報告値では県平均41.4%を上回っており、受診率は毎年上昇している。	国民健康保険課
			ミニデイサービス事業の実施率	①前年度から2地区減り、85地区と契約したが、実施回数は延べ503回となり、前年度の225回から2倍以上増加した。。 ②活動援助員の高齢化に加え、コロナ禍での事業自粛や中止もあり、事業運営の知識ややり方がうまく引き継がれていなかったり途絶えてしまったりした地区があり、事業の再開が困難になっている地区がある。 ③活動援助員の負担軽減を図るとともに、区長会や民生委員などに働きかけを行いながら、新規(再開含む)実施地区を各年度2地区増やすことを目標に、実施地区の継続・拡大を図っていく。	52.9%	51.2%	50.0%	61.8%	55.2%	進捗の遅れ	活動援助員の高齢化や、コロナ禍での事業自粛や中止もあり事業運営の知識ややり方がうまく引き継がれていなかったり途絶えてしまったりした地区があるため。	高齢政策課
			認知症サポーター数	①認知症サポーター養成講座を33回開催し、認知症サポーターの養成を行った。 ②公民館等を会場とし開催する定期開催は、受講申込数が少ない状況のため、受講希望団体の申し込みによる随時開催の普及啓発を強化し、認知症サポーター数の増加を図る必要がある。 ③認知症の人や家族が地域で安心して暮らし続けるために、認知症サポーターの養成の養成に努める。	11,762人	12,752人	13,443人	13,700人	15,200人	概ね順調に進捗	-	地域包括支援センター
		③魅力ある居住環境 の整備	土地区画整理事業完了地区の割合	①西部土地区画事業では、換地計画について事前の住民説明会等を実施した。また登記簿調査及び登記申請書作成業務委託及び新旧住所対照表作成業務委託等を実施した。 ②西部土地区画整理事業の換地処分公告をするため、多数いる地権者に換地処分通知を受領してもらい理解をもらうことが必要となる。 ③西部土地区画整理事業において、換地処分公告を行いその後は登記申請事務や清算事務を行う。	82.0%	86.0%	86.0%	91.2%	91.2%	概ね順調に進捗	-	区画整理課
			中心市街地整備事業の進捗率	①駅周辺第一土地区画整理事業、駅周辺第二土地区画整理事業、密集住宅市街地整備促進事業を実施した。事業進捗を図るため、国庫補助及び市単独費などの財源確保を行った。 ②補助対象事業をはじめ、区域内すべての事業進捗を図る必要がある。 ③国庫補助及び市単独費などの財源確保を行うとともに、新たな財源確保を検討する。交渉困難箇所については、引き続き粘り強く交渉を続ける。	53.0%	65.3%	67.7%	71.4%	83.3%	進捗の遅れ	国庫補助交付率の低下や物件移転に協力的でない人との交渉に時間を要することから移転補償が計画通り進まないため。	区画整理課
			伊勢崎駅周辺の中心市街地における歩行者等通行量	①現在整備を進めてい駅周辺第一土地区画整理事業区域内2地点の自転車・歩行者の通行量の調査を行った。 ②郊外部の都市化と中心市街地の活力低下が進んでおり、中心市街地の再生や活性化が急務となっている。 ③伊勢崎駅周辺総合開発事業により、中心市街地の魅力向上に取り組んでおり、事業の早期完成を実現する。	1,078人	1,098人	1,278人	1,270人	1,190人	順調に進捗	-	商工労働課
		④交通体系の確立	コミュニティバス利用者数	①コミュニティバスあおぞらのダイヤ改正等を令和5年12月1日に行い、利用者の利便性の向上を図った。 ②利用者数の減少から徐々に増加傾向にはあるが、コロナ禍以前の水準に戻すための利用促進に向けた取組が必要である。 ③ダイヤ改正後の利用状況をみながら、利用者の増加を図るため、随時、ダイヤの見直し等を行うとともに、効率的・効果的な運行により利便性の向上を図る。	294,758人	244,765人	266,189人	34万人	29万人	進捗の遅れ	感染症による人流抑制の影響により利用者数が減少したため。	交通政策課
			鉄道利用者数	①両毛線及び東武鉄道整備促進期同盟会からのパンフレットやポケットティッシュで、啓発活動を実施した。 ②コロナの影響で減少した利用者数を回復させる必要がある。 ③引き続き、期成同盟会を通じて他市と連携し、啓発活動を実施する。	490.7万人 (平成30年度)	395.8万人 (令和3年度)	425.1万人 (令和4年度)	492万人 (令和4年度)	430万人 (令和8年度)	進捗の遅れ	感染症による人流抑制の影響により利用者数が減少したため。	交通政策課

大基本目標	小基本目標	数値目標	重要業績評価指標 (KPI)名称	令和5年度 ①主な取組・事業実施状況 ②課題 ③今後の方策等	基準値 (令和元年度)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和5年度 目標値	計画最終年度 目標値 (令和9年度)	進捗状況	進捗が遅れている 理由	指標の担当課
		具体的な施策										
3 まちの創生	3-2 安心安全な 暮らしの実現	刑法犯認知件数	-	①青色防犯パトロール車によるパトロール活動、市民防犯の日啓発事業、防犯協会による防犯診断。 ②自転車盗などの身近に発生する犯罪が増えていること。 ③地域の防犯力の向上と防犯意識の啓発。	1,634件 (令和元年)	1,420件 (令和4年)	1,869件 (令和5年)	1,450件 (令和5年)	1,318件 (令和9年)	進捗の遅れ	コロナ禍で抑制されていた件数が、それ以前の水準に戻りつつあるため。また、特に、自転車の盗難など、窃盗に関する犯罪が増加したため。	安心安全課
		①安心できるまちづくり	災害時協力協定締結数	①新規で3事業者と協定を締結したが、2件協定を解消したため実質1件増となった。 ②協定のきっかけが受動的であること。 ③目標値は達成しているが引き続き協定数を増やしていけるよう協定先を検討していく。	65件	80件	81件	71件	78件	順調に進捗	-	安心安全課
			防犯灯設置数	①設置基準に基づいた適正配置 ②特になし ③市で管理している水銀灯について、地元区長と協議し、LED防犯灯への入替や撤去等を行う	15,665基	16,856基	17,187基	17,450基	19,100基	概ね順調に進捗	-	安心安全課
			交通事故発生件数	①四季の交通安全運動や交通安全日に合わせ、啓発活動を実施した。 ②社会活動の活発化に伴い、令和4年から事故は微増した。啓発活動を継続することが必要である。 ③啓発品や啓発場所を工夫し、交通安全に意識を持ってもらえるよう、啓発を行う。	1,465件 (令和元年)	1,143件 (令和4年)	1,185件 (令和5年)	1,190件 (令和5年)	1,050件 (令和9年)	概ね順調に進捗	-	交通政策課
			いせさき情報メール登録数	①登録者数を増やすためSNSや啓発活動にて周知を図った。 ②利用促進を図ってはいるが登録件数の急増は難しい。また、防災情報に限らず、市政全般に関する情報の発信が多くなっており運用面での見直しが必要とされる。 ③登録者数を増やすための方策について検討していく。	14,308件	17,433件	17,785件	17,200件	21,000件	順調に進捗	-	安心安全課
		②空き家対策の推進	危険空き家除却件数	①空き家除却補助事業を実施した。 ②自発的な除却を促進するため、所有者に対し、補助事業及び適切な管理の推進等について、積極的な周知が必要である。 ③はがきの郵送等を実施し、除却を促進する。	30件 (H30年度)	88件 (令和3年度)	98件 (令和4年度)	110件 (令和4年度)	210件	概ね順調に進捗	-	住宅課